

令和8年度 中学1年 シラバス

□教科	地理			
□授業時数	4時間/週			
□教材	中学生の地理(帝国書院), グラフィックワイド地理Ⅰ・Ⅱ(とうほう), 中学校社会科地図(帝国書院), Sirius21地理(育伸社) 中学生の歴史(帝国書院), 改訂グラフィックワイド歴史(とうほう), Sirius21歴史(育伸社), スタディサプリ(該当項目参照)			
□学習到達目標	<p>地理を学習することとは「地球全体の各地域の特色を様々な知識を結び付けてまとめる。地域を見る視点(規模)を調整しながら、現在どのような問題が起きて、どのような解決策があるかを考える。」ことである。そのため、言葉を暗記するのではなく、自分の力で言葉の内容や意味を説明できるようにしたり、知識を操作して各地域の特色について正しく理解したり出来るようになることが目標である。現代の国際化社会の中で世界の動きや流れに取り残されることなく、積極的に世界や日本の現状について考え、将来社会に出た時に主体的・中心的に活躍できる土台を築いていくことができるようにする。</p> <p>3学期から歴史を学習し、過去の人々の生き方や出来事を通して、未来をより良い社会にしていけるためにはどうしたら良いか?を考えていくことである。そのためには、登場人物や出来事を暗記することではなく「なぜそうなるのか?」を考え、1・2学期で学習した地理的要因とも関連付けて理解できるようにする。</p>			
□成績評価基準	年間5回の定期テストの平均点と平常点を合わせて100点満点で成績を算出する。平常点は授業態度を中心に、学期ごとに数回のノート提出、課題などの提出物で評価する。			
□授業計画	月	単元・項目	内 容	備 考
	4月	第1部 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿 1 私たちの住む地球を眺めて 2 世界のいろいろな国々の特徴 3 緯度と経度 4 地球儀と世界地図の違い 第2章 日本の姿 1 世界のなかでの日本の位置	<p>地理を学習する入口として「地図の見方」について学習する。方位の確認をした後に、大陸の配置や地域区分について学習する。その後、地図の見方について様々な題材を用いて練習し、授業中に地図を見ることに慣れる。</p> <p>その後、地図の描き方について学習する。球体を平面に記載すると何らかの誤差が生じ、この誤差を踏まえて目的に応じて様々な地図の描き方が登場することを学ぶ。様々な地図の見方について学習し、今後他分野を含めた社会科全体を理解するだけでなく、生きていくうえで必要不可欠なことであるため正確に理解する。</p>	実力テスト①
		2 日本と世界各地との時差 3 日本の領域とその特徴 4 都道府県と都道府県庁所在地		
	5月	第3部 日本のさまざまな地域 第1章 地域調査のしかた ・地形図の使い方 調査の方法 第2章 日本の地域的特色 ・日本の地形、気候、自然災害、人口、資源とエネルギー、産業、交通網と通信網、地域区分	<p>地形図を用いて自分が住んでいる地域や自分の身の回りの環境について、様々なことを調べて発表し、人々は災害に対してどのような対策を取っているのか、災害による被害を未然に防ぐためにはどのような対策を取ればいいのか、意見交換をおこないながら、考える力を身に着ける。</p>	定期テスト①
		6月		
	7月		2 交通網の整備と人々の生活の変化 3 瀬戸内海と海運と工業の発展 4 交通網を生かして発展する農業 5 人々を呼び寄せる地域の取り組み	

令和8年度 中学1年 シラバス

□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	9月	第3節 近畿地方	<p>家屋が集合した場所を集落と呼ぶ。集落は村落と都市に分かれてそれぞれ別々の人間活動が行われている。これらは形成された時の自然環境や産業・社会システムなどが人間活動に影響を与えて形成されているため、村落や都市の種類や特徴をを時代背景を考えながら学習する。次に現代社会における都市の様子や都市構造について学習し、現代社会のシステムや人間の諸活動について考察する。</p> <p>農業では、低迷する食料自給率について触れ、低下の原因となった日本の農業制度の変遷や他国との関係について考える。工業では、工業を発展させていく一方で、貿易摩擦の問題や、多国籍企業の増加による産業の空洞化について考える。また、産業の発達や住環境の整備によって様々な開発がおこなわれていくなかで、深刻な環境問題が発生していることに触れ、産業の発達と環境保護のバランスについて考える。</p>	実力テスト②
		1 近畿地方の自然環境		
		2 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏		
		3 阪神工業地帯と環境問題への取り組み		
		4 古都京都・奈良と歴史的景観の保全		
	5 環境に配慮した林業と漁業			
	第4節 中部地方			
	1 中部地方の自然環境			
	2 中京工業地帯の発展と名古屋大都市圏			
	3 東海で発達するさまざまな産業			
4 内陸にある中央高地の産業の移り替わり				
5 雪を生かした北陸の産業				
第5節 関東地方				
1 関東地方の自然環境				
2 多くの人が集まる首都、東京				
3 東京大都市圏の課題と対策				
4 工業地域の変化と第3次産業の発達				
5 大都市周辺の農業と山間部の過疎問題				
第6節 東北地方				
1 東北地方の自然環境				
2 伝統行事と生活や文化の変化				
3 稲作と畑作に対する人々の工夫や努力				
4 水産業と果樹栽培における人々の工夫や努力				
5 工業の発展と人々の生活の変化				
第7節 北海道地方				
1 北海道地方の自然環境				
2 雪と共にある北海道地方の人々の生活				
3 自然環境を克服して発展した畑作や稲作				
4 北国の自然が育む酪農や漁業				
5 北国の自然を生かした観光産業				
定期テスト③				
錬成テスト①				
定期テスト④				
第2章 古代国家の成立と東アジア	錬成テスト②			
第1節 人類の登場から文明の発生へ	歴史は過去の事象を暗記するのではなく、どういった背景で事象が生じて、それによってどんな影響が出たかを理解させる必要があることを理解する。その際、1・2学期で扱った地理を歴史にも活かし、地理的要因を踏まえながら理解する。			
1 人類がたどった進化				
2 世界各地で生まれる文明				
3 東アジアの文明の広がり				
4 ギリシャとローマの政治と文明				
5 仏教・キリスト教・イスラム教の誕生				
第2節 東アジアの中の倭（日本）	縄文時代から弥生時代までは国内の文献史料が少ないため、出土品や他国の史料を用いて当時の生活や文化・風習を理解する。			
1 縄文から弥生への変化	弥生時代には海外との交易や技術の発達によって貧富の差が生じ、やがて近畿地方を中心に大王を頂点とするヤマト王権が誕生する。この時代から天皇を中心とする政治が始まっていく歴史上重要な点だということを理解する。			
2 ムラがまとまりクニへ				
3 鉄から見えるヤマト王権	大陸から仏教が伝来したことによって国内でも崇仏論争が起こり、蘇我氏や聖徳太子が中心に立って、仏教を取り入れた政治が進められていく。この時代の寺院は世界遺産などにも登録されているため、現代にも数多くの史跡が残っていることを理解する。			
第3節 中国にならった国家づくり				
1 ヤマト王権と仏教伝来				
2 揺れ動くアジアと倭国				
3月	定期テスト⑤			